

ハイデルベルク大学 翻訳・通訳養成所 (Institut für Übersetzen und Dolmetschen)

1930年に設立されたハイデルベルク大学に属する翻訳者・通訳者養成機関(設立当初はマンハイム)。

学修課程

通訳ディプローム(Diplom-Dolmetscher)(8学期)

翻訳ディプローム(Diplom-Übersetzer)(8学期)

翻訳短期修了生(Akademisch geprüfter Übersetzer)(6学期)

言語：英語 フランス語 イタリア語 ポルトガル語 ロシア語 スペイン語：このうち2言語を選択。

(A言語：母語 B言語：能動的に表現が堪能な外国語 C言語：受動的に完全に理解できる外国語)

入学資格

一般的な大学入学資格と目標言語の高い能力。特に英語及びフランス語に関しては高度の運用能力を要求される。その他の言語については準備コースの中でも集中的に学ぶが、基本的には独力で能力を身につけることが要求される。

学修過程

最初の4学期はすべてのコースが共通。その後進級試験に合格したら各コースへと進む。通訳に関しては適性を見るために準備コース(2学期まで)が設けられている。これは学修期間には含まれない。

	(語学準備課程)	基礎課程+進級試験	(準備課程)	専門課程	資格
通訳	1～2学期	4学期	1学期	4学期	通訳ディプローム
翻訳				4学期	翻訳ディプローム
短期翻訳				4学期	翻訳短期修了生

通訳ディプローム、翻訳ディプロームの資格取得後、それぞれ翻訳ディプローム、通訳ディプロームの試験を受けることが可能。また通訳ディプロームの資格取得後、第3外国語での資格試験を受けることも可能。

ディプロームの資格を取ったらさらに博士号の準備も可能である。

進級試験

筆記(2時間)(翻訳：第1・2外国語→ドイツ語、ドイツ語→第1・2外国語)

口述(30分)(第1外国語のテキストを基にした質疑応答)

最終資格取得試験

ディプローム

☆修了論文(教授に与えられたテーマで4ヶ月以内に提出)

☆筆記試験

[翻訳コース]

第1外国語からドイツ語への翻訳及びその逆(それぞれ一般的テキストと専門分野からのテキスト)

第2外国語からドイツ語への翻訳(専門分野からのテキスト)

ドイツ語から第2外国語への翻訳(一般的テキスト) (各3時間)

[通訳コース]

会議テキストの第1外国語からドイツ語への翻訳及びその逆

会議テキストの第2外国語からドイツ語への翻訳 (各2時間)

☆口述試験

[翻訳コース]

第1外国語地域の文化に関する試験(30分 第1外国語で)

言語学・翻訳学に関する第1外国語のテキストについて(30分)

第2外国語の一般的テキストのドイツ語への翻訳かつ第2外国語での説明(25分)

[通訳コース]

第1外国語からドイツ語への逐次通訳及びその逆(各15分)

第1外国語からドイツ語への同時通訳及びその逆(各15分)

第2外国語からドイツ語への逐次通訳及び同時通訳(各15分) 第1外国語地域の文化に関して第1外国語で応答(30分)

言語学・翻訳学に関する第1外国語のテキストを基にした応答(30分)

☆補完分野に関する試験

翻訳短期修了生

筆記：一般的テキストのドイツ語から外国語への翻訳及びその逆

専門分野からのテキストのドイツ語から外国語への翻訳及びその逆（各3時間）

口述：専門分野からのドイツ語テキストの外国語への翻訳(20分)

専門翻訳の問題についての質疑応答(20分)

授業内容

通訳準備コース：理解内容を正確な規制的言語に移し替える訓練　メモの技法　記憶術　注意力・集中力の訓練

基礎課程

テキスト分析と文体　各国事情

専門用語のデータベース構築　技術翻訳とテキスト言語学　翻訳学とテキスト言語学　各国事情(文化、歴史、制度など)　目標言語の能力向上　一般的テキストの翻訳(双方向)

専門課程

メモの技法

ニューメディア(HTML、専門用語のデータベース構築、テキスト分析、Web ページ構築作業を通じた翻訳・通訳の実習と討議、電子出版)

医療専門用語論　交渉通訳　専門テキストの翻訳(双方向)

(その他多数のゼミナール、討議、実習あり。ほとんどの授業は各言語毎になされる。ここでは英語の場合を基準にして紹介した。一部は言語横断的授業もあり。)

* 本来的な通訳・翻訳学の他に補完科目が課せられる。法学(国際法、公法、ヨーロッパ共同体法、行政法、商法など)、経済学(国際経済理論、経営学理論、財政学、経済史)、医学(医学史、医療倫理、動物・人体実験の歴史と倫理、医療と戦争、医療用語実習など)、産業技術(マンハイム大学での受講)

会議通訳実習(外部から人を招いて講演してもらい、それを同時及び逐次通訳、またリレー通訳)

翻訳コースでは毎日新聞を読むことが義務づけられる。

CIUTI(国際翻訳通訳高等教育機関会議)の加盟機関であり、実習派遣、国際会議実習などを通じて積極的な学生交流を行なっている。

この他新設のコースとして

1 情報テクノロジー 学士コース

マンハイム大学と共同。外国人学生を主なターゲットにしている。資格はBachelor。技術翻訳、ソフトウェアの地域言語化、技術文書作成、ウェブ出版など。応募資格はドイツ語母語話者もしくはドイツ語非母語話者で優れた英語能力を有する者。

2 会議通訳修士 資格は Master of Arts。

モジュールシステムと ECTS(European Credit Transfer System)を採用。内容は8週間以上のB言語国での実習と国際会議での実習から成る。プロの通訳家を招いた講義

モジュール：通訳基礎方法論

認知言語学による通訳学研究の文献整理と研究の現状把握 メモの技法、記憶術、公的談話の技法(声調、プレゼンテーション法、論理的談話)、職業倫理(守秘義務、著作権、一方当事者への肩入れ等)、ブースでの技術、会計と契約

モジュール：同時通訳及び逐次通訳 I

B、C言語からA言語へ、A言語からB言語へ 通訳プロセスの点検(テキストとテーマの進行、統辞的、語彙的な先取り・補完・推論の技法)、危機への対処、言語心理など

モジュール：同時通訳及び逐次通訳 II

より長い通訳 論理、修辞、統辞法 専門用語の基礎

モジュール：同時通訳及び逐次通訳 III

通訳実習(学術会議、記者会見など) 資料を用いての同時通訳 テレビ通訳 草

稿のある通訳 リレー通訳 模擬会議実習

モジュール：同時通訳及び逐次通訳 IV

職業人としての訓練の総仕上げ 市場状況 交渉の戦略 労働条件と契約 プ
ロの会議通訳者ないし関係省庁や国際機関からの人を交えての実習

選択モジュール：専門分野通訳

自然科学(特にバイオ科学と物理学)、法律学、技術、政治学

モジュールの同時通訳及び逐次通訳 I～IV はA-B 言語間とA-C 言語間でポ
イントが異なる。前者が高いポイント。以上のモジュール及び外部会議実習に
加えて修士論文を提出し、口頭試験に合格して修士号(Master)を取得する。

感想

通訳としての資質は一般的に語学が堪能であるかどうかということとは別で
あるため、進級試験後も適性を見るための準備コースが設けられていることが
特徴的である。特にメモの技術、集中力の訓練、記憶術の訓練がなされるが、
同時に通訳コース全般を通じて「正確さ」が強調され、それは特に類義語を区
別しながら曖昧さを取り除いていく訓練にも見られるようである。また通訳・
翻訳を問わず母語(ドイツ語)の表現能力を鍛えることが要求され、そうした授業
も組み込まれている。さらにその際母語と目標言語で常に並行して思考できる
ようになることが要求される。各学生が用語のデータベースを構築する作業も
その目標に資すると言える。

新設の会議通訳者養成コースは伝統的なドイツの大学とは考え方を大きく異
にする。通訳者はフリーランサーとして立っていくことを前提に考えられてお
り、職業人養成のための極めて実践的な内容となっている。

司法通訳については補完科目としての法律学の内容が公法中心だということ
もあり、養成所内部のカリキュラムは具体的な法廷通訳等の養成とは直接には
結びついていない。

(参考)ドイツの高等教育制度

伝統的にドイツの大学で授与される人文・社会科学系の資格は
Magister(Diplom)、Doktor の2種がある。近年はこれに加えてアメリカ型の

Bachelor、Master の資格を導入する動きが盛んである。前者の体系では修学年限や取得科目の制限が緩やかで、フンボルト的な人文教養教育を指向しているのに対し、後者の体系では年限も科目の制限も厳しく、必修科目も多い。制度的な面からは一概には言えないが、一般に後者の体系の方が修学年限は短いとされている。Magister は「修士」、Diplom は「学士」と訳されることもあるが、これらは本来ドイツ固有の学位で、Master や Bachelor とはその内容が大きく異なる。なお Magister と Diplom は等位の学位である(Magister は主に人文科学、Diplom は社会科学や自然科学で一般的)。

修了生の就職先としては化学会社、製薬会社、自動車会社、国連など。

ドイツ通訳・翻訳家協会(Bundesverband der Dolmetscher und Übersetzer e.V.)への登録により自らの存在を公示する。司法通訳のためには裁判所の認定試験を経る。

翻訳料の基準相場は1 ページあたり1800文字で20～23 € (込み入った文章では1日3枚程が限度)。契約書や技術文書など企業相手のフリーランスでは1行につきメジャーな言語(英語など)では1 € 、日本語では2.5～3 € ぐらい取れる。文芸ものではまず食べていけない。